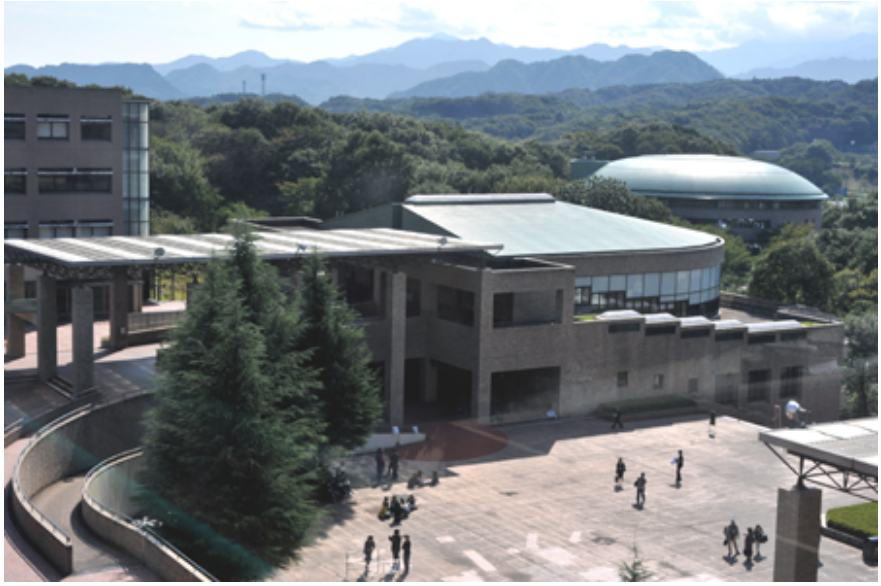
朝日子だより

吉田高校　進路指導部
H23.1.19　発行
社会人編　Vol.10

吉高生のみなさんへ
社会人の視点から、仕事内容や、社会人として必要とされる資質について書きました。進路を考える際の参考になれば幸いです。

勝俣　吉通（平成１３年度　普通科卒業）
勤務先：学校法人　法政大学　人事部人事課採用研修担当
最終学歴：法政大学　社会学部　社会政策科学科卒業

仕事の内容は・・・



皆さんは大学で働くというとどのようなことを想像するでしょうか？おそらく，研究や講義をしたり，マスコミなどにコメンテーターとして出ている「教授」や「准教授」をイメージするのではないでしょうか。実際のところ，大学には大きく分けて２つの働き方があります。まずひとつは先程述べたように皆さんがよくご存じである，「教授」や「准教授」といわれる教育・研究に携わる「教員」です。そしてもうひとつが大学の管理・運営や学生支援に携わる「職員」です。

私は大学職員として学校法人法政大学に勤務し，現在 6 年目になります。法政大学では教職員合わせて約 1,400 名勤務し，約 28,000 名の学生に対して教育や様々な支援を行っています。

まず，最初に私が配属されたのは小金井キャンパスにあるキャリアセンターという部署でした。主に理工系学生や大学院生に対して就職活動支援やインターンシップなどのキャリア支援を行っていました。小金井キャンパスは理工系学部のキャンパスということもあり，学生相談の際には様々な技術的な言葉が出てきて，当初は非常に苦労しました。というのも，私は高校時代，数学を始めとする理系科目がとても苦手だったからです。1 年目の頃は相談に訪れた学生や企業の採用担当者の話していることが，ほとんど理解できませんでした。とにかく知識を身につけるために，苦手だった理系科目の勉強に取り組みました。機械系・電気系・情報系・化学系などの本

を読み，また学生と実際に話しながら苦手としていた理系の知識を身につけていきました。2 年目になると，理系の話も苦にならず対応することができるようになり，キャリアセンターに勤務していた４年半の間に非常に多くの学生の就職活動やキャリア支援に携わり，学生を希望どおりの進路に進める手助けをしてきました。法政大学の卒業生が，社会で活躍している姿を間近で見ることができる仕事であり，とてもやりがいの大きい仕事でした。

現在は，人事部採用研修担当として，職員の新卒採用や，現在勤務している職員の研修に携わっています。大学職員という職業はここ最近注目を浴びており，非常に人気のある職業の一つになっています。10 月から 2012 年度の採用活動が始まりましたが，例年を 2 割近く上回る方が法政大学職員を志望しています。また，研修では，年間 30 近い職員研修プログラムの企画立案や運営に携わっています。職員の資質の向上（Staff Development）は大学の監督官庁でもある文部科学省からも要請されています。日本には現在，国立大学，公立大学，私立大学を合わせて 778 大学（国立大学 86 大学，公立大学 95 大学，私立大学 597 大学　2010 年現在）あり，大学間の競争が激しくなっています。一人でも多くの方に法政大学を選んでもらえるように職員の資質の向上は重要なものであり，最も力を入れて取り組んでいる仕事です。

職場の様子は・・・

緊張感がありながらも，和気あいあいと仕事をしています。幅広い年齢層が働いていますが，年齢や役職も関係なく，時には時間を忘れて熱い議論を交わすこともあります。どのような仕事でも同じだと思いますが，自分一人で完結する仕事はありません。必ず周りの人と何らかの関わりがあります。「困った時はお互い様」ではありませんが，協力し合い，良いチームワークの中で働いています。

就職前と就職後の印象の差・・・

「2011 年春に大学卒業予定者の内定率が過去最低の 57.6%」と，先日報道されました。私が学生の頃も就職環境は厳しく，私は 1 年間就職浪人をしていました。採用してくれるところがあるのであれば，どんな所であっても「やってやろう！」という気持ちをとても強く持っていました。

就職が決まり，改めて大学職員という仕事をイメージしたとき，学生のころに知っている大学職員の仕事は「デスクワークか・・・」っと思っていました。しかし実際には動きまわることが多

くありました。実際に働いてみて大学職員という仕事の領域の広さに，驚きを覚えました。就職活動では会社名やイメージなど表面的なところで知ったつもりになることが多くあります。自分の足を使って本質を探ることが大切だと思います。

学生と社会人との違い・・・

「嫌なことでもやらないといけない」ことです。先ほど，理系科目が苦手であったことは記述しました。しかし実際には「嫌いだから逃げた。」という表現が正確だったと思います。学生の頃は，授業の履修であっても，アルバイトであっても，人間関係であっても。自分が「嫌だ」と思ったことから避けることができました。しかし，社会人はそうはいきません。自分が嫌だと思っていても社会人の責任として避けることができません。

ここ最近，大学生がひ弱になったと評価されることがあります。学生時代に，「嫌なことだからこそチャレンジする。」ということを経験し，自己鍛錬する必要があると思います。

今役に立っていると感じる高校時代の経験・・・

1年生の頃に旧校舎の屋上であった応援練習，３年間富士山５合目まで行った強歩大会，仮装パレードや合唱に取り組んだ蒼風祭，毎日続いた英語，数学などの小テストを通じて，精神的にタフになったこと，そして，課題克服のために継続的に取り組む力を身に付けることができました。

高校生のころは正直なところ「なんのためにこんなことをするんだ・・・」と思っていました。しかし，今，振り返ってみると，吉高で様々な経験してきたからこそ乗り越えられたことがたくさんありました。

皆さんはまだ気付いていないと思いますが，皆さんが過ごしている高校時代の１分，１秒が皆さんを成長させ，そして，一つ一つの決断が皆さんの将来を決める重要なものとなります。一日一日を悔いなく生きて欲しいと思います。

吉高のOBとして皆さんの健闘をお祈りいたします。